

2017-18 最終報告書
(報告期間 2018 年 1 月 1 日～2018 年 5 月 19 日)

国際ロータリー第 2710 地区
2016-2017 年度 地区補助金奨学生
三澤志織

1. 報告書提出日：2018 年 9 月 27 日
2. 基本情報
 - 氏名：三澤志織
 - 派遣ホストクラブ及びカウンセラー：広島西ロータリークラブ、梶本政明様
 - 受入ホストクラブ及びカウンセラー：Rotary Club of Monterey Pacific, Ms. Lisa Luscombe
 - 教育機関：Middlebury Institute of International Studies at Monterey
 - 専攻分野：MA in Translation

5月19日に卒業し、モントレイでの2年間の学生生活が無事修了いたしました。今回は、前回のご報告期間後から卒業まで期間についてご報告いたします。

学業面での成果

1. 冬休み

冬休みは昨年と同様、12月の半ばから1月末にかけての長い休みでした。休み中は、卒業論文とリサーチペーパー（研究小論文）の執筆に取り組み、一息つきつつも忙しく充実した休みとなりました。リサーチペーパーは、日本語翻訳者の翻訳支援ツールの使用状況について、教授や卒業生にインタビューやアンケートの回答にご協力いただき、調査を行いました。リサーチ自体も興味深かったのですが、様々な翻訳者の意見やお話を聞く機会となった上、改めて自分で翻訳支援ツールについて調べるきっかけにもなり、自分のための良い勉強にもなりました。卒業論文は、翻訳作業に加え、翻訳プロセスを分析して論じるコメントリーの作成に集中的に取り組みました。そのために翻訳の理論やベストプラクティスについて様々な資料を読み込むことに多く時間を割いたのですが、そこからまた新たに翻訳の面白さを発見することができました。リサーチペーパーと卒業論文の執筆作業で休みがほぼ終わってしまう感じでしたが、実践重視の学期中とは違った作業を重点的に行うことで、良い気分転換にもなりました。

2. 最終学期

最終学期は、卒業論文を無事完成させることと、卒業試験に無事合格することが主なテーマでした。卒業論文は、冬休み中に一通りの翻訳作業とコメントリーの執筆が完了できたため、第1稿の提出後にもらったフィードバックを取り入れて第2稿を作成する作業が始まりました。翻訳に関しては、第1稿の段階でも比較的完成度が高かったのですが、コメントリーについてはかなり修正が必要となり、何度も教授からの指導を受けながらの作業となりました。2月下旬に第2稿が無事完成した後は、卒業論文の副査の先生方からフィードバックをいただき、そ



卒業式当日、学校にて

れを織り込んで 3 月下旬までに最終稿を完成させるという流れでした。副査の先生方からフィードバックをいただくことで、いつも見ていただいている主査の教授と少し違った視点から指摘してもらうことができ、そういう考えもあるんだなど、新たな気づきがありました。翻訳には絶対的な正解がないとよく言われますが、こうして複数の方からフィードバックをもらうことで、そのことを改めて実感することができました。また、そういったフィードバックをいかに自分のスタイルにうまく取り入れていくかをじっくり考えることができたことも、卒業論文に取り組んでよかったと思えることの一つでした。最終稿の提出後は、4 月下旬に口頭試問が行われました。口頭試問で不合格にされることはほぼないと聞いてはいましたが、合否が決まる以上、やはり緊張しました。口頭試問は主査の教授、副査の先生方 2 人が参加する形で行われました。副査の先生方は 2 人とも日本に在住のため、当日はスカイプを接続して行われました。一部想定外の質問もあり、回答に苦戦するところもありましたが、なんとか無事合格をいただくことができました。最後のフィードバックは厳しいものもありましたが、良いフィードバックも多くいただくことができ、少し自信ができました。



卒業式会場

期末試験は卒業試験を兼ねたもので、試験の合否が卒業できるかにかかっています。試験はいつも緊張しますが、卒業がかかっていると思うと今回は特にそうでした。試験前の最後の数週間は、試験勉強に集中したい一方で、他の授業で取り組むべきプロジェクトがいくつか進行していたり、就職活動が重なったりと、あまりそれだけに集中できずもどかしい思いでした。そのことや緊張もあって、試験を受けた後の手応えがあまりなく心配でしたが、無事合格をもらうことができ本当にほっとしました。



卒業証書授与時

参加したロータリー活動

1月下旬に、昨年も参加させていただいた、受け入れクラブ主催のオークションイベント、「Cioppino & Vino (チャッピーノ&ビーノ)」が開催され、ボランティアとして手伝いをさせていただきました。昨年と同様、イベントのセッティングの手伝いと料理を提供する係を担当し、とても楽しい経験でした。

最終学期も毎週のミーティングに関しては、授業と時間が重なるため、冬休みや春休みなど都合がつく時以外はなかなか参加が叶わず残念でした。ですが、5月の卒業前最後に参加させていただいたミーティングでは、私のためにケーキとシャンパン、カードを用意し、卒業のお祝いをしてくださいました。皆さんの暖かさに本当に感動しました。あらためて、本当に良いクラブに受け入れていただけたことに感謝の思いでいっぱいです。



最後のミーティングにて

直面した課題、問題点等

年明けから卒業にかけては、卒業論文の仕上げ作業と並行して、試験やグループプロジェクト、就職活動など次々と様々なことが続き、2年間の中でも特に充実しつつも忙しく厳しい時期でした。途中で目の前のことをすべてこなすのは無理なのではないかという思いに駆られたことが何度かありましたが、追い込まれて必死になればなんとかなるということを改めて実感できた経験でした。最後まで結局、時間管理をうまくして効率的に作業を進められるようになった実感はありませんでしたが、一通り滞りなく終わることができたことで少し自信ができました。また、2年間を通じて、大きな健康問題に苦しむこともなく、学業に集中できたことは本当に恵まれていたと思います。

今後の課題、キャリア目標

就職活動は苦戦しましたが、5月末に何とか無事就職先が決まりました。どの場所で就職するかに関して、日本も含め非常に悩みましたが、OPTという卒業後に1年間米国で就労できる制度を利用し、まずは米国で就職することにいたしました。勤務先はカリフォルニア州のサンディエゴにあるソニー・インタラクティブエンタテインメント社で、翻訳者として6月の半ばから勤務を開始しました。約3ヶ月が経過しましたが、トレーニングやフィードバックもしっかりしていただける良い職場で、楽しく仕事できています。また、サンディエゴも本当に住みやすい場所で生活も楽しんでいます。同社は、プレイステーションを主な事業としている会社のため、ゲーム



サンディエゴの街並み



サンディエゴの海

に関する翻訳を日々行っておりますが、この分野の仕事ははじめてなので、実務を通じて多く学んでいけることを楽しみにしています。また、昨年の夏休みのフェローシップを除けば、海外で働くことは正式には今回が初めてなので、良い経験になることを期待しています。修士課程で学んだことを活かして働きながら、翻訳者としてさらに成長できるよう、引き続き頑張りたいと思います。

今後のロータリー活動への参加

1年間は米国で仕事をするようになりますが、帰国時にはあらためて留學生活についてご報告させていただきたいと思ひます。モンレーでの受け入れクラブの皆さんには、就職についてご報告するととても喜んでくださり、同じカリフォルニア州なのだからまたいつでもモンレーに来る機会があれば顔を出してね、と暖かい言葉をかけてくださいました。このせつかくいただいたありがたいご縁を今後も大切にしていきたいと思ひます。

最後に

5月末に、2年間の留学生活が無事終了しました。振り返ると本当に濃く充実した2年間でした。留学生活を通じて、自分が学びたかったことをしっかりと学べたのはもちろん大きな収穫ですが、やはり一番大きかったのは素晴らしい人々と出会い、世界中に素晴らしい友人ができたこと、そして自分の視野が大きく広がったことです。また、実際に米国やスイスで生活したり、その他にも様々な国を訪れたりする機会を持てたおかげで、他国の文化への理解を大きく深めることができました。そしてそれは、自分の翻訳にとっても非常に良い影響となっていることを実感しています。今回の留学は国際ロータリー第2710地区の皆様のおかげで実現しました。このような素晴らしい経験をする機会をいただきましたこと、心から感謝しております。今後は、留学生活で得たことを十分に活かし、世の中に還元していけるよう引き続き精進していきたいと思っております。どうもありがとうございました。